

伝統芸能からモダンカルチャーまで、 多彩な文化・芸術が融合

新宿は、文化・芸術の息吹を感じる機会にあふれ、その存在がまちの価値を高めています。
新宿の文化・芸術の魅力について、新宿に長年お住まいの俳優・遠藤憲一さんにお話を伺いました。



デビューのきっかけになった
思い出の場所

区長 遠藤さんは、新宿区に長くお住まいですね。

遠藤 21歳の頃からですが、もう36年になります。新宿は駅の周辺だけでもいろいろな表情があつて面白いですし、日々、刺激を受けています。
区長 区民の方からそのように新宿の魅力を開けると、とても嬉しいですね。昔の新宿について、何か思い出はありますか。
遠藤 ここがまだ四谷公会

堂だったときに、自主公演で二人芝居を行ったんです。舞台を見た芸能プロダクションの方からスカウトされて、この世界に入りました。僕の原点ですね。当時はこのような客席はなく、平場でパイプ椅子でした。今でも近くを通ると、ここから始まったなと思ひ出し、感慨深いものがあります。その芝居の練習をしていたのが新宿中央公園なんです。

区長 遠藤さんが新宿から世に出られたと聞くと、誇らしいですね。区内の公園では、今も若い俳優さんが稽古をしたり、芸人さんがネタ合わせなどを残しています。ここから大きく羽ばたいてほしいですね。区では、新宿文化センターと四谷・笹塚町角舎の3か所のホールで、さまざまな文化活動をサポートしています。このホールがある建物の7階には、四谷公会堂の窓枠の一部を残しているんですよ(右写真)。



四谷公会堂の窓枠の一部

新しい芝居の誕生を
観客として
新宿で体験

区長 遠藤さんは、新宿で映画やドラマの撮影をすることもあるのですか。

遠藤 ええ。昨年、出演したドラマ『下町刑警視庁捜査三課』でも、新宿で撮影がありました。住宅街の路地の向こうに高層ビル群が現れるなど、新宿は絵になる場所が多いですね。にぎやかな飲食店街もありますし。
若い頃は、昔のピカデリーや、テアトル新宿、武蔵野館など、区内のいろいろな映画館に行っていました。小さくても、いい映画をやっているところも多くあるのがいいですね。

区長 新宿にはミニシアターから大型館まで、さまざまな映画館があります。東宝シネマのゴジラは新宿のランドマークになっているんですよ。たくさんの方の皆さんがここで映画をやろうと新宿に集まっています。数多くの路線が乗り入れる立地で、関東各地の撮影所の起点となるため、映画人が多く集う「映

宿クリエイターズフェスタ」や多彩な文化芸術イベントが楽しめる「ワールドミュージアム」などのイベントを開催しています。さらに、新宿ゆかりの文化人の足跡を後世に残していくことも使命だと考えています。

区長 新宿には「人々の温かさ」も
新宿の魅力

遠藤 私は新宿のまちは、映画館や劇場、ホールが充実していて、文化や芸術、娯楽に触れるには完璧だと思つてます。でも、それを楽しむにはまちな雰囲気も大切ですよ。よく、新宿に住んでいると話すと驚かれます。怖いまちというイメージがある人もいます。でも、そんなことは全然ないですよ。人の温かさが感じられるまちなちだと思つてます。それで僕は、隣近所の人ときちんと挨拶できるような関係を大切にしたいと思つています。うちでは例えば、妻の実家から送られてきたものを近所にお裾分けしたりしています。

区長 そうですね。区は行政サービスでは行き渡らない部分で、地域の方々がサポートしてくださっています。遠藤さんのように地域とつながりを持っている方がいると、心強いですね。
遠藤 うちの近くの商店街にはいいお店がありますし、お気に入りの焼き鳥屋で皆さんとお付き合いがあるんですよ。
区長 2軒連なった焼き鳥屋があるところですね。あの辺りは確か、食堂やいい匂いのするパン屋もありました。私も行ったことがありますがいとお店ですよ。
遠藤 すごく、さすが区長さん。地元商店街の隅々までご存じなんですね(笑)。
区長 いえいえ、ありがとうございます。



新宿区長 吉住 健一



俳優 遠藤 憲一さん

ご存じです。
遠藤 これからは、人と人とのつながりが大事な時代です。新宿は、たくさんの方がつながること、新しい文化・芸術が生まれ、飽きずに楽しみ方を発見できるまちです。
区長 新宿は伝統的な文化が息づきながら、新たな文化を受け入れる土壌があり、伝統とモダン、日本と世界という、多彩な文化・芸術が共存しています。文化や芸術の豊かなこと、作り手の方が多いことが新宿のまちの魅力を高めています。これからも、人と人とのつながりを大切にしながら、地域とともに文化芸術を応援し、魅力あふれるまちにしていきたいです。

自分の糧になっています。大音量の音楽の中で芝居をして、セリフもまるで怒鳴り合っている人たちの熱い気持ちが伝わってきました。演劇が変わり出した、その現場を観ることができ、新しい表現を知りました。
直接の知り合いでは、『風雲児たち』を連載されている漫画家のみなもと太郎さんの影響が大きいです。近くにお住まいなのですが、歴史哲学や、どんな本を読むべきかなど、いろいろな教えていただきました。学生の頃は全然、本を読まなかったのですが、この仕事を始めてからよく読むようになりました。

**文化・芸術を
多彩な
プログラムで応援**
区長 そうですか。新宿は夏目漱石や島崎藤村など明治の文豪とも縁が深いんですよ。また、落合には画家が多く住んでいました。
遠藤 本を読み出して最初に手に取ったのが、夏目漱石の『坊っちゃん』や『草枕』などでした。オフの日に、歌舞伎町の方まで歩いて、喫茶店で本を読むのが、気分転換の一つなんです。今も紀伊國屋書店にはよく行つていましてよ。

区長 新宿は落語・神楽・囃子などの昔からの文化が息づく一方で、お笑いなど新しいカルチャーも受け入れ、広がっています。それぞれの文化が混ざり合うことで、新しいものが生まれ、お互いに高め合っているんですよ。遠藤さんも、俳優はもちろん、ナレーションの仕事をしたり、テレビのパラエティ番組に出るなど、幅広く活躍されていますね。
遠藤 最近は、映画やドラマの宣伝活動のためにバラエティ番組に出る機会が増えています。最初は面白いことも言えないし、バラエティの仕事

事は苦手だったので、開き直つて弱点を出してしまえばいいのだと気が付いたら、とても楽になりました。見る方がどのように受け取られるかがそれぞれですが、役柄とのギャップも楽しんでいただければと思つています。
区長 何事も体験してみ、初めて気が付くこともありますね。区の文化・芸術活動も同じで、まずは触れていただくことが大切だと考えています。そこで、多様な文化芸術を育みつつ、新宿ゆかりの文化・芸術を再発見し、気軽に触れていただくための「新